

ぼくしょう なか ま はなし
牧場の 仲間たちの お話

こわがりやの犬^{いぬ}

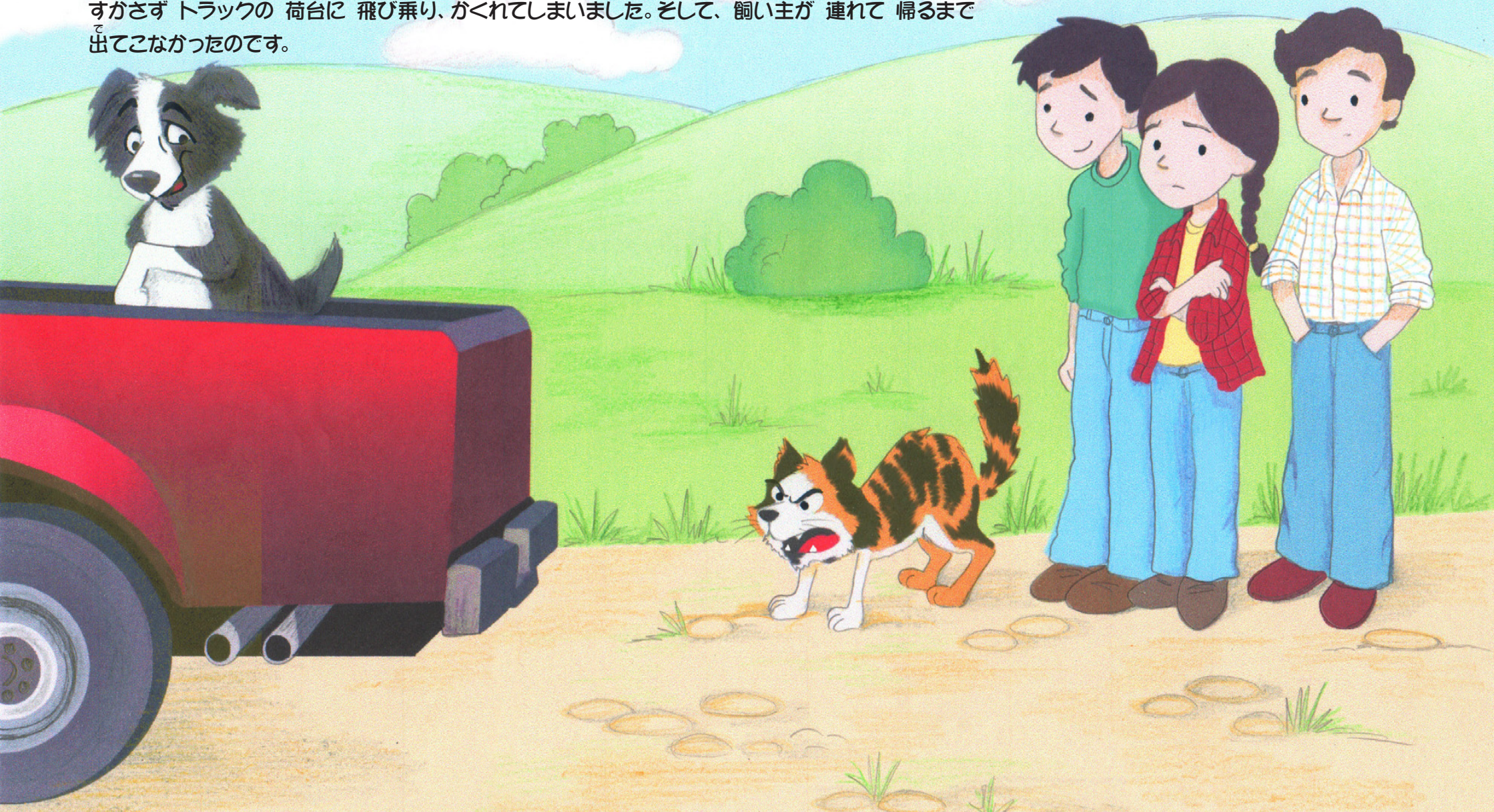


えいご 英語では、^き気が ^{ちい}小さい ことや ^{ひょうげん}おくびょうな ことを「こわがりやの
^{いぬ}ネコ」と表現することがありますが、この ^{ものがたり}物語は、「こわがりや」ではなく、
^{いぬ}犬まで ^{ゆう}こわがらせてしまうほど ^{はなし}勇がんだった ^{はなし}ネコについての お話です。

^{ちち}父の ^いいとこは、ブルーという ^{なまえ}名前の ^{ゆうしゅう}優秀な ^{ばんけん}番犬を ^か飼っていました。
^{のうじょう}ブルーは、農場を ^{まも}よく 守ってくれました。けれども、わたしたち ^{こども}子供たちが
^{かれ}彼の ^{のうじょう}農場に ^い行くと、ブルーは いつも はげしく ほえました。かみついたり
はしませんでした、わたしたちを こわがらせたかったのです。

ある日のこと。父のいとこがブルーを連れてわたしたちの農場にきました。ブルーはトラックから降りると、早速わたしたちに向かってほえ始めました。けれどもブルーは、わたしたちに勇がんな三毛ネコがいるなんて、思いもしてませんでした。ミケは、ブルーがわたしたちをこわがらせているのが気に入らなかったのです。それで、ミケはどうしたのでしょうか？

「ウーッ!!」ミケは全身の毛を逆立て、うなり声を上げながら、ブルーに突進しました。ブルーはネコを追いかけたことはありましたが、自分に飛びかかってこようとする勇がんなネコなんて、今までお目にかけたことがありません。こわくなりました！ミケから逃げようと、すかさずトラックの荷台に飛び乗り、かくれてしまいました。そして、飼い主が連れて帰るまで出てこなかったのです。



その日、^ひ勇^{ゆう}がんな ミケは わたしたちの
^{えいゆう}英雄に なりました！ ブルーに ケガを
させたりは していませんが、
^{ちが}近づかないようにと ^{けいこく}警告したのです。

「^{つよ}強く ^{お お}雄々しく あれ。うろたえては
ならない。おののいては ならない。
あなたが ^いどこに 行っても あなたの
^{かみ}神、^{しゅ}主は ^{とも}共に いる。」
^{しんきょうどうやくせいしよ}(新共同訳聖書、ヨシュア記 1:9)

